

経営情報学会 2018 年春季全国研究発表大会

大会実行委員会：木野泰伸 筑波大学
大内紀知 青山学院大学
津田和彦 筑波大学
森本千佳子 東京工科大学
藤田昌克 帝京大学
浅野浩美 高齢・障害・求職者雇用支援機構

3月8日・9日の両日、筑波大学 東京キャンパスにおいて、「ビジネス科学の再構築」を大会テーマとして開催されました。大会1日目は、研究発表会、開会式、特別講演、チュートリアルに加え、前大会から企画されました企業事例セッション、ランチョンセミナーが行われました。2日目は、ポスターセッション、表彰式、基調講演、そして研究発表会が行われました。会員・非会員合わせて、225名の参加者が集う盛会となりました。

1. 大会テーマと基調講演・特別講演

本大会は、「ビジネス科学の再構築」を大会テーマとして開催されました。1日目、開会式の後に行われた大会委員長講演では、「経営・情報・システム—AI/IoT/Industrie4.0に適応しうる経営情報システムの姿について論ずる—」と題して、寺野隆雄大会委員長が講演しました。続く、特別講演では、ドワンゴ人工知能研究所所長の山川宏氏が、「AIの汎用化がビジネスにあたえる影響を考える」と題して、ご講演くださいました。

2日目の午後に行われました基調講演では、筑波大学副学長のキャロライン・ベントン氏が、「大学におけるグローバル人材の育成」と題してご講演くださいました。グローバル化するビジネスの世界に対して、大学における人材育成の取組み、および、グローバル人材の育成に関するアンケート調査の結果等を報告くださいました。

2. 企業事例セッション

1日目の午前に行われました企業事例セッションでは、9件の発表があり、セッション会場では活発



木嶋会長による開会の挨拶



山川宏氏による特別講演



キャロライン・ベントン氏による基調講演



ランチョンセミナーの様子

な議論が交わされました。聴講者の評価をふまえ、大会委員長から、「経営情報学会 2018 年春季全国研究発表大会 企業事例セッション 優秀報告賞」として、株式会社アナリティクスデザインラボの野守耕爾氏による「人工知能技術を応用した特許文書分析が生み出す新たな技術戦略の検討」、および、JFE スチール株式会社の茂森弘靖氏による「データサイエンスによる鉄鋼製品の品質管理の革新」を表彰しました。

3. ランチョンセミナー

前回全国大会より始まりました、ランチョンセミナーでは、初日のお昼休みの時間を有効に活用していただくとう、株式会社 NTT データ数理システムの嶋田佳明氏・尾崎博子氏から「数理システム分析ツールのご紹介～シミュレーション、テキストマイニング、ディープラーニングを中心に～」というテーマで昼食も提供されるセミナーを開催していただきました。定員 50 名での開催でしたが前回に引き続き早々に申込定員に達するなど、大変盛況でした。

4. 特別セミナー

大会企画として、1 日目の午後には東京工業大学工学院経営工学系教授の飯島淳一氏による特別セミナー「DEMO—企業活動の骨格を可視化するモデリング方法論—」が定員 12 名、3 名×4 チームのワークショップ形式で実施されました。事前申込をした参加者には、1 週間前に事前資料が配布されており、当日は非常に密度の高いワークショップが 2 時間にわたって行われました。

5. 一般報告

2 日間を通じて、以下のセッションに分かれ、報告と活発な質疑応答が行われました。

1 日目：人材・組織 (1)、情報化社会、イノベーション、金融、e ビジネス、データマイニング、ビジネスモデル、IoT

2 日目：人材・組織 (2)、IT 資産価値、官の情報、シミュレーション、会計・ファンディング

6. 表彰式

大会 2 日目の午後、大講義室において、表彰式が行われました。2017 年度 AIS 関連国際発表奨励賞として、大江秋津氏、清水たくみ氏、増田佳正氏の 3 名が表彰されました。また、本大会のポスターセッションで発表された 30 件の中から学生優秀発表賞に選ばれた 3 件の発表が表彰されました。

7. 懇親会

大会初日の夜、茗荷谷駅近くのイタリアンレストランを貸し切り、懇親会が開催されました。懇親会では、企業事例セッションの表彰や PACIS2018 の紹介などがあり、盛況のうちに終了いたしました。